

Gangsters

Gangsters Press no.4

—Contents—

スペシャルインタビュー

監督 西村大介

対談

NEW ERA BOWL

Offensive Line

Welcome to Gangsters!

Adam 新コーチに一問一答

注目の Freshmen

他已紹介リレー

Gangsters News vol.4

2014.8.25.mon

[interview]

西村大介 監督

Gangsters Head Coach Daisuke Nishimura



史上最弱と言われて始まった 2014 年度吉村組。日大戦、7-55。慶應戦、7-56。その言葉通り惨敗し続けた春シーズンを終え、夏を乗り越えてチームはどのように変化したのか。秋シーズンを目前に、チームの変化や今秋の注目選手について、監督・西村大介に聞いた。

<インタビュー：主務 中島明日華>

——この夏意識して取り組んだことは何ですか？

「チームを一つにする」ということかな。そのやり方としては、「一つになろうよ」と言ってそうするんじゃなくて、自分がこのチームをどう勝たせるのかということに熱中させる。夢中にさせるというやり方。

——私の中でそれを感じ始めたのは合宿の頃からなのですが、それまでも考えてやっていたのでしょうか？

アメリカから帰ってきて、一番大事なそこやなあと思っていた。でも、帰ってきた時に感じたのは心がドライブしていない、あんまり好きなチームじゃない（すぐケガしたり痛がったり最後までやらないとか）、夢中になっていないと感じた。だからまずは下地として心をドライブさせるというか、そういう意味ではチームを一つにするための伏線としてみんなの心をドライブさせることを意識していた。

青いバンド（※右ページ写真参照）も、みんなに配るときにちらっと言ったけど、わっかになっているところも大事だと思っている。チームは一人ひとりのハーモニーなんです。うちのチームが勝つためには、一つになるというその部分が他のチームに優位性を持てると思うから。全面的にチームワークというと、仲良くクラブみたいになっちゃうから、そうはなりたくないと思って、バンドにハーモニーという言葉は入れなかった。

——今秋注目している部員は誰ですか？

庄野（4 回生 AS/MGR）かな。4 回生の底辺だと思うので、庄野がほんまに変わるとチームは前へ進むんじゃないかなと思う。ブルーチーム（控えのメンバーで構成される仮想敵チーム）をほんまに率いてやれよって言ったら、オフエンスの中でのサイン出したりするという仕事をやらないと言い出したり。あいつは全部いちいち話してやらないと理解できない。もうちょっと 2, 3 回生のうちにアプローチすべきだったというのは反省している。今やってる本音で話すとかも、春のうちにやっておくべきだったし、今の 2, 3 回生は今のうちからやればいいと思う。

プレーヤーとしては、添島 (3 回生 LB#44) かなあ。彼がタックルするとオフェンスが止まっている、出るときは彼がミスしている。あとは、堀 (2 回生 DB#32) がどこまでやってくれるか。自分の相手にどれくらいタックルできるか。それとやはり DL。

オフェンスでは両タックル (OL の両端) と、林田 (4 回生 QB#17)。WR は多分ある程度は機能する。他に前向きに期待しているのは田嶋 (4 回生 RB#35) と大上 (3 回生 RB#21)。田嶋は体つきも良くなってきているし走りも良くなっているから、田嶋がどれだけゴリゴリいけるか。田嶋がいけるようになるとランを止めないとアカンくなるからパスも決まっていくようになる。毎回 4 ~ 5yds 出るようになってくれるとうまくいくようになる。

林田は春はだいぶよくなっていた。何がいうって判断がいいのと、決めたところにちゃんと投げられるようになった。そりゃ、ディープボールとなれば小原 (現コーチ) の方がいいけど、クォーターバックとしては春の時点で小原より上だった。ただ最近、その判断が悪くなってきている。

他のやつがアサインメントミスしているのもあるのだろうけど、何が原因なのか分からないのだけど、色々考えているからなのか、一瞬判断が遅くなったり。ちょっとだけオフェンスが複雑になったので、それに戸惑っているのか。それこそ奴と心中するしかないから。あの飄々としているところがうまく出るといいね。試合であろうがなんだろうが、やることやります、というところが。淡々と判断して投げるということを当たり前のように 100 パーセントやり切れるというその強みを取り戻してほしい、秋のこのシステムの中でできるようになってほしい。



▲青いバンド

部員全員に配布したバンド。常に心がけてほしい「PHYSICAL」「HIT」「LEADERSHIP」の文字を記し、それら全てを関学を上回るレベルで行うようにということで青を配色している。

わっかであることで、一人ひとりの繋がりを意識してほしいという意味も込められている。

——今年のチームをもうあと一步成長させる、変化させるポイントは何だと考えていますか？

チーム全体としては、一つにすること。あとは、実力が足りない、ちょっとずつちょっとずつ上げていくんやろうな。

——最後に、優勝を期待してくださっている読者の方々へメッセージをお願いします。

ものすごく要約すると「頑張ります」ということなだけ。

とにかく、「今年のチーム」を見てほしいという感じ。「去年立命に勝った」京大とか、「昔優勝した」京大とか、「ここ数年勝てていない」京大とか、いろんな形容詞をつけられると思うけど、今年は今年で全然違うし、去年と違う一つにまとまっていくやり方でいっているのかなと思う。去年は何人かボコッボコッとリーダーみたいなやつが出て引っ張っていった。今年はもう少し広い人間がいろんなところでいろんなことを言い始めている。たとえば村上 (3 回生 TR) とか。俺も闘っているんだっていう、去年とはまた全然違うんだけど、みんなが熱中して夢中になって、真剣に勝ちにいらっているという、そういうのを期待してほしいという感じかなあ。

そして、応援してください、ってことかなあ。どこをかっていうと、今年の吉村組っていうあえていうなら非常にへっぽこ 4 回生、人数も少ないし、下級生の頃から問題児みたいなやつばかりの 4 回生が、今闘っているという、何て読者の方に言ったらいいの分からないけど、この超へっぴやつらが意地見せてやったるでってやってる、というのを応援しに来ていただけたらと思います。よろしくお願いします。



関西学生リーグのオールスター戦である NEW ERA BOWL (NEB)。京大からは今年 10 人が選出され、カリフォルニア州立大学 サクラメント校からコーチを迎えたホワइटスターズの一員として、立命館大学をはじめとするライバル校のトップ選手たちとお互いを高め合った。その参加者の中でも、今最も注目を集める 3 人、RB#21 大上祥平 (3・工)・DB#25 須藤崇允 (3・経済)・WR#10 玉木裕也 (2・農) に、NEB でのこと、シーズンに向けた取り組みについて語ってもらった。

——お互いのイメージ

玉木：須藤さんはもうリアクションの鬼ですね。リアクションがめっちゃ早いと思ってます。

大上：須藤は 1 回生のときからアジリティーに長けてて、一番最初に上回生の練習に入ったりとか、動きに関してのセンスがすごい。ちょっと身長ちっちゃくてでぶいけど (笑)。

玉木：大上さんは見た目以上にしぶとくゲインしてくるイメージ。ここで倒れるんちゃうかっていうところから 2～3yds ゲインしてくれる。

須藤：パワー系やからな。最近は太って FB みたいな体型になってきたし (笑)。あとは、大上はこだわりをもったプレイヤー。研究熱心で、Before でも岡部さん (コーチ) とかにも教わって、自分のカットにこだわって追求してやってるイメージがある。

大上：玉木はアメフトをするために生まれてきた男といっても過言ではないと思う。ほんまに、走る、捕る、投げるを全部兼ね備えてて、全部そつなくこなせるし。まだアメフトを始めて 1 年ちょいしか経ってへんのに NEB で MIP に選ばれるわ…。

須藤：俺も、玉木はめっちゃセンスフルやと思う。しかもキレがあるから、ディフェンスやって嫌なプレイヤーではあるな。マンツーマンの練習でもほぼ CB に勝ってるし。

大上：ちょっとアホやけどな (笑)。ちょっとアホやけどほんまにすごい。

——玉木の MIP 受賞について

須藤：やったなこいつ！名を残して帰ったな！って (笑)。

大上：俺とかはスターターになれなかったけど、玉木はレシーバーとしてもスターターで試合に出て、しかもスペシャルプレーも玉木ありきで組まれてたりとか。さっきも言ったみたいにほんま、全部備わってるからいろんな局面で使ってもらえんねんなと思って。

玉木：賞は嬉しかったけど、俺でいいのかな、っていうのはありました。たまたま落ちたボールを拾って持っていったらタッチダウンやった、みたいな。キャッチミスも含めてミスが多かったんで、単純に嬉しかった半面ちょっと申し訳ないなっていう気持ちでした。

大上：けど最後フェイクでディフェンスを抜いた時の振りとかさ、あれはすごかった。

須藤：確かに。あとはディープボール捕ってたら文句なしやったけどな。

——NEB で感じた、他校の選手たちへの印象

大上：すごいなと思ったのはやっぱり立命のキャプテンで LB の山本さん。あと SF の大貫さん (立命) はもうめっちゃすごい。今まで試合でしか対峙してこなかったけど今回は一緒に練習してる中で見てて、身体がデカいし腕の筋肉もやばくて、しかも速くて。春は敵として戦ってる中でそんなこと気にしてられないから感じられなかったけど、

やっぱりアスリートで何でもできて強いと思った。でも、あれに勝たなきゃと思った。

玉木：やっぱり龍谷の持田 (WR) とかは腕がすごかった。あとは立命の WR かな。

須藤：CB は全体的に、全員アスリートだと思った。京大の CB よりも。MVP を獲った木戸 (関学 WR) にもマンツーマンでついたけど、やっぱり腕の筋肉がすごかった。

大上：やっぱり身体ができてるよなあ。締まってる。どの大学の選手も結構デカかったしな。中でも立命は身体とキレ、スピードが京大とは違う。アメフトが上手い、とかいうよりポテンシャルの問題。

——各ユニットで意識して取り組んでいること

須藤：CB は基本的にアホなやつが多いから、緒方さん (4 回生・DB#18) とか滑川 (2 回生・DB/K#9) とかがめっちゃテンションあげてうるさく練習してる。けど、ユニット内でも各個人持ってるこだわりはバラバラやと思うねんな。俺やったら Eyes (目の使い方) とか。各個人課題があって、各個人でその課題をつぶすために意識してるって感じ。

大上：RB は、出るのも 1 プレー 1 人とかやし、個人主義みたいところがあるから、ユニットとして意識してることはあまりなくて、OL も一緒になって「ランチーム全体として」って感じやな。ランがうまく出ないとオフェンスってテンポよく進んでいかないとと思うから、今はランチーム全体でいっぱい話す機会を作って、お互いのポジションごとの考え方とかを詰めてすり合わせて、全体としてランを出そう！っていうのをやってる。

TB ユニットとしてやったら、俺ら今 5 人いるんやけど、5 人が 5 人全員持ち味もタイプも一切被ってないプレイヤーの集まりやねんな。得意な局面とか長所短所が選手によって違って、いろんな場面で使っていけるからこそ、仲はいいんやけど競争がけっこうある。「一本目は譲らない」って、いい意味で 5 人で意識し合ってる。

玉木：WR は、とにかく最近はボールを落とさないことを意識してる。誰かが落としたら全員で腕立て伏せ。やっぱりボールを落としたらそこで流れが止まるし、逆に捕ったらそこで流れが変わるから。1 つのボールを繋げることを大事にしてる。



——合宿を終えて

須藤：合宿では、上廣さん (2009 年度入学 OB・IBM ビッグブルー所属 WR) と何度もマンツーマンして、まだまだやなっと思った。京大の No.1WR に対してはまあ勝てるかもしれないけど、オールジャパン級の上廣さんになったら全く自分のプレーができんっていうか、圧倒された。もっと自分のプレーを磨いていかなって。

大上：俺も合宿で高木さん (2009 年度入学 OB・IBM ビッグブルー所属 RB) の動き、キレを見て、京大ディフェンスがあんな風に個人に圧倒されたん久々ちゃうかなって思っ。もちろん試合に勝つためにはあのくらいのスキルを身につけなあかんけど、そのためだけじゃない。普段最強の相手とやり合えてたらディフェンスもどんどん伸びてって切磋琢磨できると思う。ああいうすごいプレイヤーがいることは、普段の練習からチームに影響与えんねやなって。

玉木：この合宿の目的が「チームを一つにする」ってことやったと思うんやけど、ポジションごとにミーティングする中で、皆で考えてることを共有して。特に 4 回生の睦さん (WR#83 山本) の思ってることを語ってもらって、自分がやっている意味っていうのがわかった。それから「今は睦さんを勝たせるためにやろう」って思うようになって、今までとはめっちゃ心境が変わった。本気度みたいなものが。

大上：合宿でポジションごと、回生ごとに長く話した時間は大きかったよな。

——今の課題

須藤：俺は、他大の WR とのマンツーマンの時の精度をもっと上げて、試合で圧倒する。あとは、ちょっと体脂肪を減らす (笑)！もっとアスリートな体にならないと。

大上：俺は、走りながらでも判断するスピードを上げて、プレースピードを上げること。あと、QB がブロックできない分浮いたディフェンスを、自分の力でブレイクしてロングゲインに繋げるってことかな。

玉木：もっともっと、体重増やします！あと、ゲインの仕方がまだ下手くそで。捕った後にパッと見ても、走るコースが定まらないことが多い。まだスピードが遅いと思うので、もっと素早く認識できるようにします。

——秋試合に向けての意気込み

須藤：インターセプトを 3 つ出す。インターセプトリーダーになれるようにプレーしたい。

大上：流れを変えるようなランをすることと、ラッシング記録上位に食い込むこと。

玉木：俺はパスを落とさないことです。自分のとこに来たボールは、絶対に落とさない。



We are, Offensive Line!

田中健也

Kenya Tanaka

平野亮

Ryo Hirano

池淵徹也

Tetsuya Ikebuchi

普段はあまりスポットライトが当てられることのないオフェンスライン。だが、彼らの活躍なしにはボールを前に進めることはできない。今回は #51 平野亮 (4・農)・#77 池淵徹也 (3・理)・#74 田中健也 (3・法) の3人に、なかなか語られる機会の少ないオフェンスラインとしての気概を聞いた。

——お互いに対するイメージ

田中：池淵はやっぱり、圧倒的筋力と腰の強さがイメージとして強いな。

平野：そやな。あとは、去年までの池淵は強いけど頭が良くないって感じやった。今も L.O.S. 上でもう少しコミュニケーションをとってくれたほうがいいかなとは思う。

田中：平野さんはスキルが一つひとつめっちゃ丁寧で、基礎はもうお手本みたい。

池淵：パスプロの形が下級生の頃からめっちゃめっちゃ上手くて、そこはすごいなと思ってた。

池淵：健也は、見た目はぱり怖いけど、実はぱり優しい。

平野：プレーヤーとしては、冬の間はこんなスターターで大丈夫なんかなと思ってたけどいつの間にかめっちゃ成長してたな。プレーはそんな強くないねんけど Intelligence があるなっていう感じがする。

池淵：俺と対照的やな。

——縁の下の力持ち、OL というポジション

田中：OL は DL と比較されがちで、プレーの性質上落ちていくと思われがちやけど、ゆくゆくはもっと場を沸かせるようなハッスルプレーをする OL ユニットにしたいです。

池淵：縁の下の力持ちと言われて、あまり悪いとは思わない。RB が走れたら俺のおかげやなと思えるし、WR がボールをキャッチしたらまた俺のおかげやな、と。俺らがおらんとバックスも活躍できへんわけやから、悪くはないかなと思ってる。

平野：俺はけっこう目立ちたがりやから、去年の春まで OL は全然好きじゃなかった。けど、なんだかんだで OL が一番試合に全部出られるし、全プレーで仕事をするのは究極的には OL だけかなと思う。それがやっぱり OL のやりがいかな。

——増量の悩み

田中：皆はなんでそんな簡単に体重が増えるん？俺は入部当初 62kg とかやったから 30kg くらい増えてるけど、常に俺らから見た池淵の大きさは異常。

池淵：95kg で入部して、みんなと同じペースですくすく成長したからな。増量頑張れとか言われずに順調に。

平野：体重が増えて困ることも多いよな。服とか。

池淵：服のサイズは 4XL。ユニクロも卒業して、川端五条にあるでかい服専門店で買ってる。

田中：俺はユニクロ入れるし、その店にはまだ行ったことない(笑)。あとは圧倒的に汗の量が増えたな。最初は寒がりやったのにいまや…。

池淵：俺は足がすぐ痺れる。柔道やってたときは正座しても全く痺れなかったのに。

平野：満員電車で 2 人掛けに座るのも躊躇するようになった。体重が増えてよかったことは社会においてははないよな。

池淵：同窓会でぱり触られるくらい(笑)。ほかにも、自分の身体のでかさがよくわからんくなって、こんくらいよけたら大丈夫やろって思ってもぶつかってしまったり。理学部のイスを壊したこともある。

——OL ユニットが掲げる目標

平野：ミーティングルームにも貼ってあるけど、OL みんなで話し合って決めた「OL の 7 箇条」ってのがある。まず目指すべき OL の姿が大きく 2 つ、①チームをリードする という姿と、②タフでスマートでバイオレントである という姿があって、それぞれにちゃんとそれを達成するための目標を定めてる。①の方は、まず、"物事に真っ先に取り組む"、"周囲に気を配る"、そして"大きな声ではっきりと話す"の 3 つ。②の方は、"言い訳なしの真っ向勝負"、"Be Positive"、"迷いなきスタート"、"フィニッシュへの執念"の 4 つ。今はみんなで決めたこの 7 箇条を守らせるように頑張ってる。

——Adrian コーチから学んだこと

田中：パンチの大切さと、タイトエルボー。あとは基本的な何気ないことをずっと指摘してくれた。ステップを前に出すであったりとか、パンチをタイミングよく出すとか。基本的なことが大事って改めて教えてもらったな。

平野：もう 1 つ大きいのが "Stay Together" っていう概念で、OL は練習中でも外でもとにかく一緒にいろ、と。とにかく一緒にいて、練習が始まる時もみんなと一緒にいく。OL っていうのはやっぱり 5 枚で 1 つのポジションやから、一人ひとりバラバラにならず一緒に行動しろよ、ってこと。

田中：最近もユニットの半分くらいが平野さんの下宿先に集まって、平野さんのつくったすき焼きを食べました。

平野：最後にもう 1 つあって、Adrian と一緒に UCLA のプレーを見てんけど、毎回毎回プレーの最後に OL が DL を圧倒するというか、ボールと関係ないところでも DL を青天させてフィニッシュしてるのを見て。そいつらが今まで見た OL の中で一番かっこいいなと俺は思った。7 箇条にある「フィニッシュへの執念」っていうのも、それを目指そうと思って決めた。

——実力を伸ばす秘訣

田中：自分のストロングポイントだと思ってるステップにはこだわって、今は体格がない分、ステップの速さであったり、その一步をどこに踏んで、相手のどこに当たるかっていうのを常に大事にしてる。特に同じ練習をしてる上手い人、山内さん（現コーチ）だったり琢さん（現コーチ石川）だったり自分とをビデオでよく見比べることはしてきました。

——上回生になって

池淵：変わったところとして、けっこう周りに指摘するようになったっていうのはあるかな。2 回生の頃は俺がいろいろとできてなかったこともあって、結局自分ができるようになったらいいやん、という感じやった。でも 3 回生になってからは、周りに注文することが増えたかなと思います。

——ポジションリーダーとして

平野：1 つ上のポジションリーダーだった琢さんは、すごくリーダーシップがあって、みんなの前でしゃべれるし、フィールドにいただけでも存在感があって、プレーでも引っ張れる人だった。俺はプレーではそこそこ頑張れるけどみんなを前にしてしゃべるのは苦手で、試合のときも自分のことに集中してサイドラインから声をかけることができなかったから、そこはずっと悩んでた。さらに今年は 2 回生、特に山本 (OL#78 山本大貴) がどんどん OL を引っ張っててすごいなと思う一方で、自分に引け目を感じたりもしてた。でも最近になって、琢さんの表面的な振る舞いを目指すわけじゃなくて、もっと俺が憧れてる琢さんの根っここのところを目指したいと思うようになった。俺が琢さんの根っここのところと思ってるのは、試合で好き勝手してる、大暴れしてるようなイメージ。そういうところを目指しつつ、琢さんにはない自分の強みをもっと発揮しようと思ってます。

——"ここで勝たせる"

田中：「関西一速い OT(オフェンスタックル) になる」ことで勝たせたい。勝負するならやっぱりスピードと低さかなと。速さと強さを兼ね備えたオフェンスが一番強いって言われている中で、今の自分には体格が足りないけど、スピードだけは誰にも負けず、そこで圧倒したいなと思います。

池淵：「関西リーグで最強のランブロッカーになって勝利に導く」こと。やっぱりランを出したいし、チームのみんなからは上位校相手にも圧倒してくださいと言われるので、ランブロックで圧倒しようと思う。

平野：「7 箇条を自ら実行して OL ユニットに浸透させる」っていうのが自分の役目やと思ってる。前まではとにかく「関西で戦える OL ユニットを作る」っていうのが目標やってんけど、その目標がずっと腑に落ちてなかった。それやとやってることはコーチと同じで、俺だけができることじゃないなと思ったから。もっと選手目線になって、どういうプレーをするかというよりはどういうユニットにしたいかっていうのを目標にするべきやと思って考え直した。とはいっても俺の考えの押し付けじゃなく、OL 全体で話し合って決めた 7 箇条をみんなすごく気に入ってるから、それをとにかく OL ユニットで徹底していこうと思う。

——最後に、秋シーズンに向けた意気込み

田中：速いオフェンスで、相手を圧倒したいです。

池淵：勝ちます！

平野：とにかく 4 年間、全部出します。自分の 4 年間全部を賭して、自分のやりたいようにやります。

Welcome to Gangsters!



Coach Adam Interview

LB として NFL でのプレー経験を持つ Adam コーチが、今秋より専属コーチとしてチームに帯同することに決まりました。8月上旬に来日し、練習を視察した Adam コーチ。時に日本語を交えて、選手やコーチと積極的にコミュニケーションをとる姿が印象的でした。今後は本場アメリカ仕込みのよりアグレッシブなフットボールをチームに根付かせ、活気を与えてくれるでしょう。以下に Adam コーチへの一問一答を掲載します。

———どうしてこの部でコーチをしようと思ったのですか？

現在南カリフォルニア大学と提携している上海交通大学の大学院で勉強しているのですが、その大学院で、千葉出身の日本人の女の子に偶然出会いました。彼女は日本で最も高く評価されている京都大学のことをよく知っていたので、私は彼女に頼んで三輪さん (GM) 宛てにメールを書いてもらいました。「あなたの大学でフットボールのコーチのお手伝いをできませんか？」と質問したところ、「興味がある」との返事をもらいました。

———このチームの選手についてどう思いますか？

選手たちはすばらしいですよ。まだ 1 週間しかここにいないけれど、選手たちはよくしてくれて、日本文化についても教えてくれます。喜んで私と共に時間を過ごしてくれていますし、日本での生活がどのようなものかを教えてくれています。私は選手たちに、きちんとアメフトをプレーするにはどうすべきなのかを教えています、選手たちはアメフトのみならず、生活一般の面でもとてもよくしてくれています。彼らとの交流はフットボールに限ったものではなく、人と人との友情であり、異文化交流でもあります。

———ギャングスターズが再び優勝するために、欠けているものは何だと思いますか？

1 週間しかここにいないのでその質問に答えるのは難しいですが、この 1 週間を見る限り、優勝するのに必要なものはすべて揃っているのではないのでしょうか。アメフトを愛している選手たちがいますし。けれど、私はアメリカ人の積極的なプレーというのを教えられると思います。また、そのような積極的なプレーが勝ちに結び付くと思っています。アメフトは男同士の危険なゲームです。積極的なプレーをし、毎プレー毎プレー激しく相手と競り合わなければ上手いきません。

また、私のゴールは、選手たちにいかにリーダーになるかということをお教えることです。京大の選手たちが NFL でプレーする可能性は、統計的には非常に少ないでしょうが、NFL に行かないとしても、将来 *fortune500 の大

*fortune500・・・アメリカ合衆国の fortune 誌が年 1 回発行する全米の企業のランキングで、上位 500 社がその総収入に基づきランク付けされる。

企業の経営者になるようなリーダーを輩出する可能性はあります。ギャングスターズにリーダーを輩出する文化や積極性を根付かせられれば、優勝することは困難ではないでしょう。

——アメフトをやっていて最高の瞬間は？

それはおそらく NFL での最初のゲームではないかな。私が 5 巡目でドラフト指名されたルーキーの年に、NFL のロゴが付いたユニフォームを着て、初めて大観衆の中でプレーした時だと思います。アメリカ人は皆、NFL 選手になりたいという願望を持っているのですが、実際に NFL でプレーできる選手は一握りで、自分がその一握りになれたというのは本当にスペシャルな気持ちでした。他のスポーツ選手、医者、教師、弁護士など、どんな職業でも、最初にプロとして活躍するときは特別な気持ちでしょう？

——NFL でプレーした中で、最も嬉しかったこと、最も辛かったことは何ですか？

嬉しかったことはもちろん、プロになれたこと。大観衆の前で喝采を受けて *Panthers の一員としてチームメイトとプレーしたことでしょう。

辛かったのは、いつ解雇されるかわからないという重いプレッシャーの中で働くことですかね。NFL 選手は普通の仕事とは違い、解雇の宣告期間が定められているわけでもなく、その日何か間違いを起こせば首になる、という厳しい世界でした。それと怪我ですね。プロの大きな相手と戦うので。毎朝起きると体が痛いんですよ。まあ、それでも最高の経験でしたけどね。

——チームへのコメント、エールをお願いします。

今シーズンがギャングスターズにとってベストシーズンであってほしいです。日本の学生リーグはレベルも上がって毎年競争が激化していると聞いていますし、勝ちと負けともほんの少しの差だと聞いています。とにかく毎試合最後のプレーまで全力で戦うこと。どんなプレーヤーにも最後のプレーは来ますし、それがいつ来るかは誰にもわかりません。1年後かもしれないし、25年後かもしれません。あの *Brett Favre にも最後のプレーはありました。ギャングスターズの選手に対しては、とにかくフットボールを楽しんでほしい。アメリカ人は皆、プロのフットボールになり、有名になって大金を稼ぎたいという夢を持っていますが、結局はやはりフットボールを楽しむためにプレーしています。ギャングスターズの皆さんには今シーズン、フットボールを楽しみ尽くしてほしいです。将来振り返った時にいい思い出になるように。なぜならば、4 回生にとってはこれが最後のシーズンになるでしょうから。ギャングスターズの健闘を祈ります。

* Panthers・・・Carolina Panthers. NFL のチーム。

* Brett Favre・・・NFL で 18 年間プレーした QB。数多くの分野で NFL 記録を有しており、連続出場記録やタフさを物語る数々のエピソードから「鉄人」の異名で知られる。

プロフィール

Adam Seward

2004 年ネバダ大学ラスベガス校卒。在学中は、LB として 4 年間スターターで出場。大学の歴代最多タックル記録を更新し（当時）、オールマウンテンウエストカンファレンスにも 3 度選出された。2005 年に Carolina Panthers に入団すると、5 年間 NFL でプレー。その後は Broncos のヘッドコーチである John Fox などに師事し、メキシコ・中国を拠点にコーチとして活動してきた。

一方、大学時代にサイエンス、マーケティングで学士号を取得しており、南カリフォルニア大学の MBA 候補生としての顔も持つ。近年は中国でマーケティングディレクターとして勤務し、優れた業績を上げている。英語・スペイン語・中国語を流暢に話すことができ、日本語に関しても基礎知識を持つ。

-Freshmen-

今年度入部した新入生のうち、注目の選手を紹介していくこのコーナー。第2回はオフェンスから5人を選びました。

No.1 田中 大輔 (QB)

工・物理工 / 関西大倉 (大阪) / 野球 / 174cm・70kg
/ 身体を動かすこと全般

名前 (ポジション)

学部・学科 / 出身校 / 経験スポーツ / 身長・体重 / 趣味

①ギャングに入ったきっかけは？

②アピールポイント

③憧れの選手

④みなさんへ一言

①本気環境に惹かれたから。

②遠投 100m オーバー, 高校野球・大阪ベスト 16

③畑 卓志郎 (オービックスシーガルズ)

④数年後に信頼される QB になれるように精一杯研究し、努力します。

応援よろしくお願いします。

コーチから：

ちょっと生意気だが、練習には真剣に取り組む、いい奴。体は強いので、フォームがキレイになれば活躍間違いなし。他の1回生のQBも上手く、熾烈なスターター争いが発生している。自分の強みと弱みを自覚し、練習して行ってほしい。2回生からファーストチームで試合に出場できるよう成長してほしい。(小原)



No.2 大久保 力斗 (RB)

工・地球工 / 清風南海 (大阪) / サッカー / 160cm・63kg / 買い物

①日本一に惹かれたから。

②3yds 走には自信があります！

③Ray Rice (Baltimore Ravens)

④先日のJV戦では、何も活躍できないまま試合が終わってしまい、悔しい思いをしたと同時にアメフトは甘くないことを知りました。次のJV戦ではもっと走ります。どうか応援よろしくお願いします！

コーチから：

身長の低さを補うほどのランセンスがある上、まじめな性格で物覚えも良く、体重も順調に増えている。

今はまだ身体をつくっている最中だが、来年の春試合での活躍が楽しみな選手。(鈴木)



No.3 石原 奎太 (RB)

工・電気電子 / 麻布 (東京) / アメフト / 165cm・90kg / 筋トレ

- ①関学と立命を倒すため。
- ②フィジカル
- ③Barry Sanders (元 Detroit Lions)
- ④今はまだ選手としてチームに貢献できるだけの選手ではありませんが、一刻も早く関西1部リーグで通用するパワーランナーになるために練習とトレーニングに励みます。

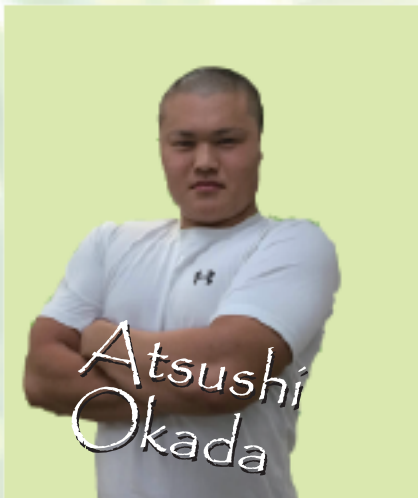
コーチから：

強いヒットを持ち味とする選手。穏やかな顔つきであるが、フィールドに立つと声を出しチームを盛り上げる。今後練習とトレーニングを積み、京大を代表するRBになってほしい。(青柳)



No.4 岡田 淳 (OL)

医・人間健康 / 帝塚山学院泉ヶ丘 (大阪) / サッカー / 177cm・85kg / 釣り・ラーメン屋巡り



- ①京大が日本一なんてかっこいいと思ったから。
- ②高校サッカー・大阪ベスト8
- ③Tom Brady (New England Patriots)
- ④憧れのギャングに入れて充実した毎日を過ごさせています。これからもっと身体を大きくしてスキルを磨いて京大を代表するOLになります！また、仲間と切磋琢磨して「日本一」を成し遂げます！

コーチから：

真面目にトレーニングに取り組み、大分アメフト選手らしい身体になってきた。OLに珍しく、かなり熱い性格をしているので、今後プレーでも気持ちでもオフェンスを引っ張ってほしい。(青位)

No.5 中辻 威統 (WR)

法 / 京都教育大学附属 (京都) / 水泳・テコンドー・バスケット / 183cm・83kg / サッカー観戦

- ①目指したいと思える先輩がいたから。
- ②テコンドーで中学生チャンピオンになったことがある。
- ③白根 滉 (京都大学ギャングスターズ)
- ④来年春から活躍できるように、基礎作りをしっかり頑張ります。

コーチから：

非凡なサイズとスピードで、フィールドを駆け巡りキャッチを量産する期待のレシーバー。今年しっかりと力をつけ、来年には今の白根以上の活躍を見せてほしい。(飯坂)



Introduction Relay

vol.4

このコーナーでは、似顔絵つきの他己紹介の形式で、試合では見ることのできない部員たちの姿をお届けします。

2014年度チーフTR。名門灘高校出身のその頭脳と器量で、チームメイトからの信頼を勝ち取ってきた。表情が乏しく口も悪いので誤解されがちだが、実はいい奴である。ケガの多いアメフトにおいて、選手のケガを減らせるということは何よりも勝敗に関わってくる。学生一のトレーナーとなってチームを勝利に導いてほしい。最後の年、共にやりきって勝とう。
(by山崎)



画：山崎



TR 小孫 一浩
トレーナー

EQ 山崎 泰知
イクイップメント



画：小孫

この数年でギャングの一大勢力となってしまった大阪桐蔭高校出身。下級生の頃はいつも先輩や同回生に叱責されていた印象があるが、4 回生になって様変わりし、いまや後輩たちに慕われる存在になった。もともと DL であっただけあり、スタッフになった今でも、DL への愛は人一倍である。これからシーズンが始まり、防具の整備も多忙を極めるが、選手の気持ちも忘れずに最後のシーズンを闘い抜こう。(by 小孫)





画：中島

一人称が「大川」で、一見とても変だがどれだけ付き合っても変な女、真澄。何とかと天才は紙一重という言葉を体現する人物であり、スタッフユニットにおいてこれまでたくさんの改革を成し遂げてきた。Press が現在のように写真や絵を盛り込んだ親しみやすい形になったのも、G.G.C. の会員の種類が増えたのも、マネージャーの仕事チーム制で行うようになったのも、彼女の功績である。また他の人のことを冷静に分析する力に長けており、スタッフユニットにおいて果たしている役割は大きい。日本一になるために、チームがもう一度変わるために、考えることが好きで上手いという強みを遺憾なく発揮してほしい。一緒に勝たせよう。(by 中島)



MGR 大川 真澄

マネージャー



MGR 中島 明日華

マネージャー

出来る女、主務・中島明日華。昔から丁寧さや根気、熱意にあふれる MGR として活動してきたが、今年は 4 回生となり、より一層チームの勝利のために全力をつくしている。その一方、既に就職内定までもらっている。そんな完全無欠に見える彼女の家は汚い。掃除ができないのである。それとも掃除する暇もないほどギャングに身を捧げてきたと言うべきか。彼女なら、持ち前の根気で様々な問題を抱えるスタッフをまとめ、勝利へと導いてくれるだろう。(by 大川)



画：大川



Gangsters News vol.4

Adrian コーチが来日しました

6月末から7月初めにかけて、UCLA で OL コーチを務める Adrian コーチが来日し、指導してくださいました。NFL では New England Patriots、Green Bay Packers に所属して 6 年間プレーし、全米王者を決める SUPER BOWL でも 3 度優勝という輝かしい経歴をもつ Adrian コーチの言葉に、OL たちは目を輝かせて聞き入っていました。



NEW ERA BOWL の MIP に 2 回生 WR 玉木裕也が選ばれました

7月13日(日)京セラドームにて、関西学生リーグのオールスター戦である NEW ERA BOWL(NEB) が開催されました。今年は京大から 10 名の選手が参加し、立命館大学、龍谷大学、同志社大学などの選手からなるホワイトスターズの一員として、関西学院大学、関西大学、近畿大学、神戸大学などの選手からなるブルースターズとの試合に臨みました。試合では、WR の玉木裕也が TD を奪い、栄えある MIP に選出されました。結果は 9-27 でホワイトスターズの敗戦に終わりましたが、他大学の優秀な選手と同じチームで練習し、試合でプレーするという経験は、参加者にとって大変有意義なものとなりました。



滋賀クリニックを行いました

快晴となった7月26日(土)、滋賀県の高校のアメフト部員を農学部グラウンドに招待し、合同練習を行いました。参加高校は、立命館守山、北大津、虎姫、長浜、長浜農業、八日市、滋賀学園、市立西宮、星陵の9校。高校生に“京大式アメリカンフットボール”に触れてもらうことで、いつもの自分たちのやり方とはまた違う技術を吸収する、よい機会になったのではないのでしょうか。

2014 年度 公式イヤブックを販売します

2014 年度のイヤブックが完成いたしました。秋の初戦、8 月 31 日の龍谷大学戦よりグッズテントと HP の通販にて販売いたします。(定価 1,000 円)
今年度のギャングスターズを体現する一冊になっておりますので、ぜひ試合会場にお越しいただき、奮ってお買い求めください。末筆とはなりますが、イヤブックの制作にあたり多大なご支援をくださった方々には、心より感謝申し上げます。



秋試合日程

秋試合の日程が決まりましたので掲載いたします。

日程	対戦相手	会場	KickOff
8月31日 (日)	龍谷大学	EXPO FLASH FIELD	18:00
9月13日 (土)	神戸大学	EXPO FLASH FIELD	18:30
9月27日 (土)	近畿大学	EXPO FLASH FIELD	14:00
10月12日 (日)	同志社大学	EXPO FLASH FIELD	12:00
10月25日 (土)	関西学院大学	西京極陸上競技場兼球技場	15:00
11月8日 (土)	立命館大学	キンチョウスタジアム	15:00
11月22日 (土)	関西大学	神戸市立王子スタジアム	14:00
11月30日 (日)	西日本代表校決定戦	神戸市立王子スタジアム	14:00
12月14日 (日)	甲子園ボウル	阪神甲子園球場	13:05
1月3日 (金)	ライスボウル	東京ドーム	未定

タオルが不足しています

現在弊部では、練習や試合で使用するタオルが不足しており困っております。もしご家庭に不要なタオルがございましたら、弊部にお譲りいただけませんか。柄の有無、大きさは問いません。ご協力くださる方がいらっしゃいましたら、以下の宛先までお送りください。

〒606-8236

京都市左京区田中大久保町 65-2

もっと、もっと感動を。

特典付！ チケット最大 25%OFF!!

シーズン開幕にあたって、関西学生アメリカンフットボール連盟主催試合用チケットを複数購入される方にお得な、前売り回数券「プリペイドバック」をご用意しました！チケット1枚あたりの金額は従来の価格より最大25%お安くなっています。特典もございますので奮ってご購入ください。

～ご購入方法～

- ①電話、FAXのいずれかの手段で、購入の予約をする。
(チケットを受け取る試合直前の木曜日までにご連絡ください。)
 - ②ご予約の際に連絡いたします口座に、代金を振り込む。
(チケットを受け取る試合直前の金曜日の14時までにお振込みください。
お振込みを確認できない場合、ご予約は取り消しとなってしまいます。)
 - ③当部チケットテントでチケットを受け取る。
- ※①、②は記載の期限を過ぎてしまうと割引されません。ご了承願います。

☆プリペイドバック

<価格>

10枚セット
→¥7,500
(1枚あたり¥750)

5枚セット
→¥4,500
(1枚あたり¥900)

特典：ご購入のチケットと同じ枚数の抽選券（当部グッズテントで抽選に参加できます。）

京都大学アメリカンフットボール部
TEL:075-723-2131 FAX:075-723-2133
チケット担当：上埜博輝

